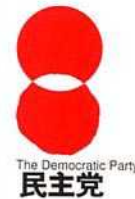


元気な草加 優しい越谷

NEWS
LETTER

衆議院議員・弁護士

細川律夫



2010年5月31日 No.162

細川律夫国会事務所 Tel 03-3508-7513 Fax 03-3593-7148 E-mail g04091@shugiin.go.jp
南越谷事務所 Tel 048-989-8788 Fax 048-989-5300 HP: <http://www.hosokawa-ritsuo.jp>

終盤国会から参議院選挙へ

通常国会の会期は残すところ約半月となり、終盤戦の攻防が続いています。終盤国会の焦点は、細川律夫副大臣の所管する「労働者派遣法改正案」と、郵政改革を修正するための「郵政法案」です。これらが成立するかどうかは、政権にとっても大きな意味を持ってきます。派遣法改正案は、不安定雇用の象徴とされている派遣労働に規制を加えるもので、日雇派遣など短期派遣の禁止や、製造業派遣、登録型派遣の原則禁止などが織り込まれています。

父子手当法案が成立

厚生労働関係では、派遣法案のほかにも、いろいろな法案の審議が続いています。26日の参議院本会議では、「児童扶養手当法改正案」が可決され、成立しました。この法案は、今までは原則母子家庭のみに与えられていた児童扶養手当を、生活に困窮している父子家庭にも拡大するもので、民主党のマニフェストで約束した政策です。委員会審議では、細川副大臣も答弁に立ちました。(写真下)



全国赤十字大会に出席

5月12日、細川副大臣は、厚生労働省を代表し、「平成22年全国赤十字大会」に出席しました。この大会には、皇后陛下、秋篠宮妃殿下、常陸宮妃殿下と高円宮妃殿下がご臨席し、細川副大臣は政府を代表して皇族の皆様を迎えました。



副大臣は、このように政府を代表し、各種の大会などに出席し挨拶する機会が増えています。

また、集団予防接種でB型肝炎に感染した患者の皆様からの訴え、あるいは、アスベスト製造工場で働いた結果、石綿肺や肺がんなどにかかり、闘病あるいは死亡した皆様や遺族からの訴えに対し、損害賠償や慰謝料を求められた被告としての政府の立場で、それらにどう対応するかといった、厳しい判断を迫られる課題にも取り組んでいます。これらの訴訟は、前政権の後始末という側面が強いのですが、これまでの政府の立場を踏まえながら、これまでと異なり、「政治主導」で対応しています。

7月に参議院選挙

参議院議員選挙は、7月11日投開票で実施されることが予定されています。この選挙は、今後の民主党政権の維持、そして公約実現のため、非常に大切な選挙です。現在参議院の議席は、定数が242議席のところ、民主党などの会派が122名であり、かろうじて過半数を取っているに過ぎません。もし、選挙の結果、与党が過半数割れということになりますと、いわゆる「衆参ねじれ」状況が再来し、あらゆる法案で民主党としての方針を貫徹できないという事態に追い込まれることが予想されます。

一方、ご承知のとおり、昨今の世論の動向をみると、民主党に対する逆風は強く、過半数の維持は容易ではないと予想されています。私たちとしては、「政治とカネ」や「普天間」など、しっかり反省すべきところは反省し、他方、予算の執行や政策の遂行には時間もかかるし、今後の対応をじっくりみてほしい、と主張しているところですので、あらためて、皆様のご支援を期待するものです。

埼玉は2名擁立



埼玉選挙区
(定数3名)
については、
過日よりご案内のとおり、
現職の島田智哉子氏と、
新人の大野元裕(もとひろ)氏
(写真左)の
2名をすでに
公認していま

す。そして、埼玉3区(草加市、越谷市)は民主党埼玉県連の決定により、大野氏の重点区となっています。大変厳しい情勢ではありますが、ここ埼玉県選挙区で2議席を確保しなければなりません。他には、自民、公明の現職のほか、みんなの党、共産、社民、新党改革、幸福実現党がすでに候補者を決め、日本創新党も検討中ということで、乱戦が予想されます。

長妻大臣を招き講演会

参議院選挙の公示を控えた6月18日(金)午後7時、恒例の3区セミナーを、長妻昭厚生労働大臣を招き、越谷市中央市民会館劇場で開催します。この会には、参議院埼玉選挙区で立候補を予定している、中東の専門家であり、外交の即戦力として期待されている大野元裕氏も参加する予定です。

長妻大臣は、ご承知のとおり年金記録問題を公にし、当時の安倍総理を辞任に追い込み、3年前の参議院選で勝利に導いた立役者でもあり、現在は細川副大臣とともに、厚生労働行政を政治主導のもと、リードしています。

ぜひ、多くの皆様のご参加を期待しております。



「渋谷文化街区プロジェクト新築工事」現場を視察する長妻厚生労働大臣、細川副大臣ら(4月19日)

細川律夫より一言

初夏のような暑さとなっています。国会も6月16日の会期末が近づき緊張した五日です。アスベスト被害者の救済問題や非遣法改正案の審議も山場を迎えています。厚生省の副大臣として頑張ります。